

学園だより 太 白 山

(令和6年度 第2号)

宮城県さわらび学園

〒982-0215

仙台市太白区旗立二丁目4番1号

TEL: 022-245-0333

FAX: 022-245-0515

[https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/](https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/sawarabi/)

[sawarabi/](https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/sawarabi/)

学園ホームページもご覧ください

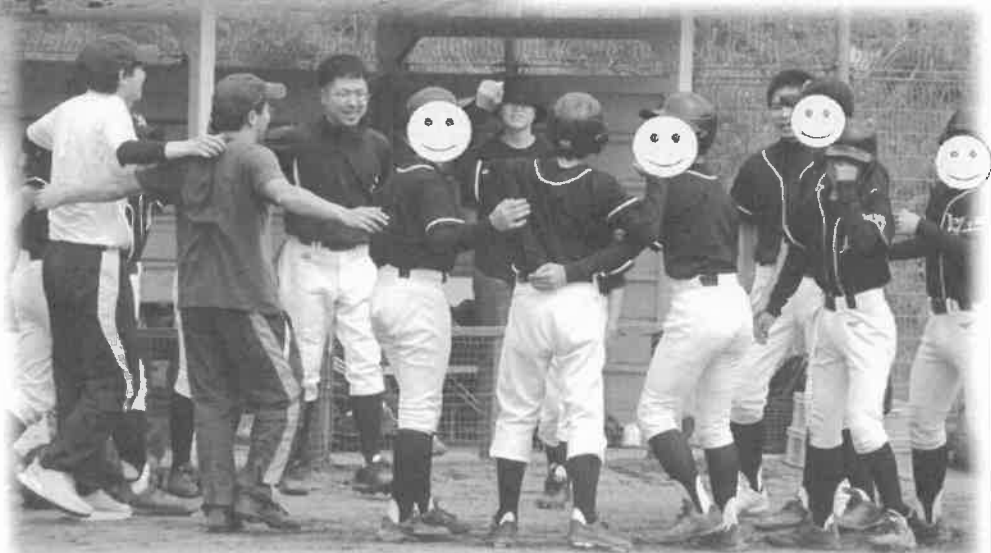
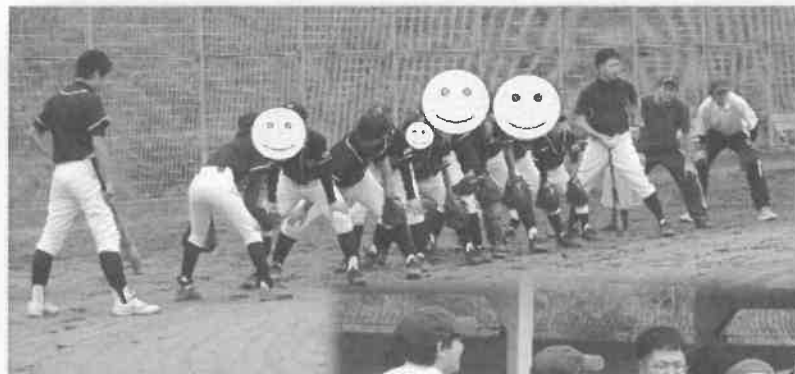
「生活野球」

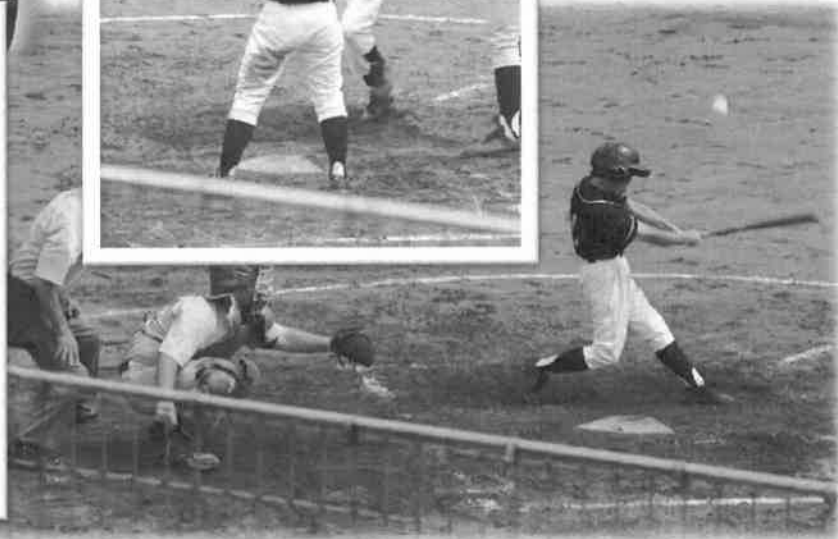
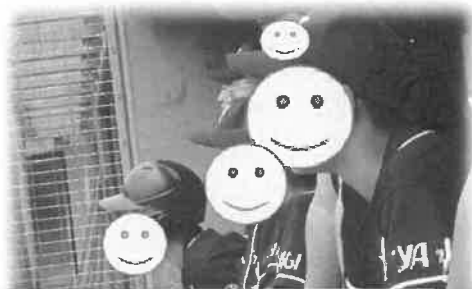
副園長 岡本 稔

4月から当園での勤務が始まり、しばらくすると「生活野球」という言葉を聞くようになりました。私も中学から野球を始め、最近まで草野球に興じていましたが、これまで野球を続ける中で「生活野球」という言葉は初めて耳にしました。

もともと当園では児童が野球をしていることは聞いておりましたが、日常生活では見られない大きな声、ひたむきな表情、動き、どれをとっても私の気持ちをワクワクさせるものでした。そこに至るまでには職員の児童に対する地道で献身的な指導があったことは言うまでもないのですが、入園する前は野球に興味のなかった児童が、野球を通じて、あいさつや礼儀の大切さや、先輩と後輩の関係から人との距離の取り方、皆で一つの目標に向かって努力することを学ぶなど、生活の基盤づくりから人間形成に野球がベースになっているということに野球のすばらしさを改めて感じました。

今年は地区大会で準優勝し、全国大会に出場することができました。児童は大変貴重な経験をする事ができ、また一つ成長できたものと確信しております。これは関係者の皆様のお力添えがあってこそその結果でもありますので、今後とも当園の「生活野球」にあたたかいご指導とご支援をお願い申し上げます。





第75回全日本少年野球東北・北海道地区秋田大会を終えて

監督 伴 綾介

秋田県で行われた地区野球大会。さわらび学園は準優勝で、全国大会への切符を手に入れました。12名全員、野球経験はなく、中には野球をやりたくないという気持ちからスタートした子もいました。練習では、うまくいかずにふてくされたり、時に仲間を責めてしまう子もいました。そこから始まったチームですが、7月5日の大沼学園との試合に敗れた後、ベンチに並んだ12名は全員泣いていました。みんなが野球に真剣に向き合い、仲間と真剣に向き合ったからこそ、優勝できなかったという悔し涙があふれました。子どもたちの練習をずっと見てきた私は、一生懸命取り組む子どもたちのパワーをひしひしと感じました。今回の経験は子どもにとっても職員にとってもかけがえのない宝物です。



「青葉寮について」

寮長 日下 善貴

「優しい青葉寮」というテーマのもと、個性豊かなメンバーで生活しています。人懐っこいながらも繊細な、感受性が強いというか、嫉妬深いというか、親しみやすいというか、馴れ馴れしいというか、承認欲求が強めな子が多いです。自己主張強めの子、それを引いて尊重してくれる子の構図となっていますが、その立ち位置は日替わりで、刺激的な日々です。

ただ問題があっても、時間がかかっても振り返ることができ、あと腐れや陰湿さがなく「ありがとう」「ごめんなさい」が言える優しい子たちだと感じています。被ることが多い児童も、立ち直りを見届ける優しさがあります。

日々色々なことがありつつ、寮職員も含めて、笑いがあり、向き合う際にはしっかり向き合う、という雰囲気があります。児童、寮職員のみなさん、いつもありがとうございます！



家族支援担当から

家族支援担当 植村 里子

家族支援業務に勤めて2年目になりました。子どもたち一人ひとりを満遍なく考えて、関わる事が出来ることは嬉しいことだと思います。寮から少し離れていても、日々の生活からスポーツで野球を頑張っている姿、反対に自身の課題に躓いてしまっている姿、様々な姿が見えます。家族や元々いた場所から離れて生活している子どもたちの様子や想いを少しでも家族など、その子どもに関わる大人に知ってもらえるように、つなぐ、一緒に考える、を忘れず、退園後の場所に繋げる一助となるように、日々の業務の中で役割を果たせるように努力したいと思っています。

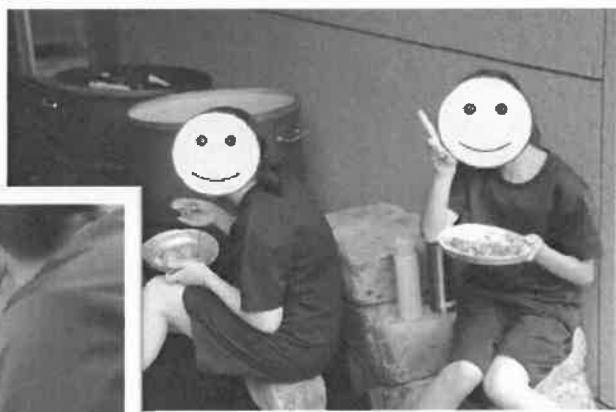
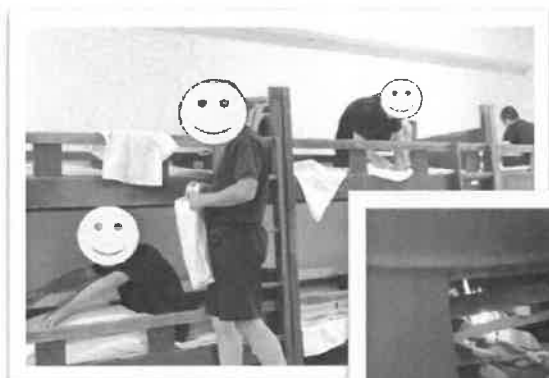


「野外活動」

技師 三浦 拓人

7月25日から26日にかけて、国立花山青少年自然の家で野外活動を実施しました。期間中は雨天の影響で、沢での活動を実施することができませんでしたが、代替案としてオムニボールや施設内外のレクリエーションを実施し、児童達も楽しみながら自然と触れ合うことができていました。

また、初日の夕食はピザを作り、各寮の児童ごとに役割分担して、児童が主体的に取り組むことができていました。今回は児童も楽しみにしていた沢での活動が実施できず、自然と触れ合う機会も制限されましたが、代替案を通じ様々な方法で自然の中での楽しみ方を児童が学べた良い機会となりました。



「インターンシップ生からの言葉」

この度インターンシップで5日間お世話になりました。私自身こういった児童自立支援施設に入るのは初めてで、緊張していましたが、初めて児童と対面した朝会では掛け声に合わせて休め・気を付けを素早く行い、挨拶も声が揃っており、想像より立派な子達だなと感じました。私はすみれ寮への配置だったので基本女子児童と接しました。私が緊張している際に進んで話かけてくれたり、おやつを分けてくれたり、心優しい一面が見られ嬉しかったです。児童の皆には課題は改善しつつ長所はのばして健やかに成長してほしいです。職員の皆様、5日間貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。



【編集後記】

気温としては例年にないほどに暑く、行事としても熱い夏が終わりました。野球の地区大会では、内容に満足した人も、悔しい気持ちを持った人もいたことでしょう。全てを良い経験として、自身の栄養として活かして頂けると良いなと思います。

野球に限らず、学園生活の中では、今までの時間にはない様々な経験をしてもらい、大きく成長して欲しいと願っています。